

令和2年度 英語教育充実プラン 高知市立義務教育学校土佐山学舎		研究テーマ (英語教育推進方針)	学習指導要領を具現化した小学校外国語教育の在り方について ～言語活動をとした主体的・対話的で深い学びの実現～			
年度当初の状況（4～5月調査を記載）		到達目標	年度末の到達目標達成状況（2月調査を記載）			
調査項目（意識調査の項目）			肯定的回答%	達成状況	考察	
児童	①英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。	1 児童意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・①②③をいずれも3%以上の向上を目指す。	83.1%	<ul style="list-style-type: none"> 目標としていた3項目を、いずれも3%以上向上させることができなかった。 しかし、他の調査項目のうち、「英語の授業に進んで参加している」「英語の授業の内容を理解していると思う」については、それぞれ向上し、肯定的評価100%という結果になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆項目①②については6年生について低下が見られ、国語でもこうした活動を苦手としている児童に対して十分な指導と支援が行えなかったこと、感染症予防の観点から話す活動を控えざるを得なかったこと、教科書の内容が難しくなり指導者が教えよう分からせようとするあまり自ら楽しく学ぼうとする意欲を減退させてしまったと考える。 ◆項目③については、毎年多数訪れる外国の方との交流が感染症のためなくなり、他の手立ても十分でなく大きく意欲を向上させることができなかったことが原因ではないかと思われる。その後遠隔授業による姉妹校との交流を活発に行うようにしたところ、児童の意識に変化が見られるようになった。 	
	②聞いたり話したりしたことを、読んだり書いたりするのが楽しい。		78.1%			
	③英語を使って日本の文化を紹介してみたいと思う。		84.6%			
教員	④英語に対する苦手意識を感じていない。	2 教員意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・④⑤を20%、⑥を10%以上の向上を目指す。	44.4%	<ul style="list-style-type: none"> 「単元計画の立て方について理解できている」「言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりについて理解できている」については、100%になった。 しかし、「英語に対する苦手意識を感じていない」については、目標値まで向上させることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「単元計画の立て方について理解できている」「言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりについて理解できている」については、100%になったことから、メンター制を利用した校内研修や、毎週の授業の打ち合わせの時間に話し合いを重ねてきたことは、一定効果があったと思われる。 ◆しかし、「英語に対する苦手意識」については、それぞれの自主性に任せ、校内研修で取り組むことができず、サポート体制が十分でなかったことが原因と考える。来年度はしっかり研修をしたい。 	
	⑤単元計画の立て方について理解できている。		100%			
	⑥言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりについて理解できている。		100%			
到達目標達成のための取組		取組計画			指標達成状況	
項目	成果指標	5～2月			達成状況	年度末評価
英語教育の推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ◆メンター制を活用した校内研修体制の確立 ◆教員意識調査 ④肯定群 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態を把握し、校内研修を計画的に実施する。 ・校内の推進体制の見直し、研究組織の活性化させる。その一つとしてメンター制を活用し、グループで若年教員を支える。各グループで達成したいテーマを選び、月1回の拡大校内研修会を活用して研究を進める。 ・校内研修に高知市教育委員会指導主事を招聘し、研修の活性化を図る。 ・公開授業等を通して、研修の充実を図る。(10月・2月) ・新しい単元に入る時や公開授業の単元作りの際に、各学年で外国語担当と共に、単元づくりについて話し合う時間を設定する。 			<ul style="list-style-type: none"> ◆メンター制を活用した校内研修体制の確立をすることはできた。その成果として、「単元計画の立て方について理解できている」「言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりについて理解できている」については、100%になったことがあげられる。 ◆しかし「英語に対する苦手意識」については、目標値を達成することができなかった。 	B
学習指導要領に基づいた指導方法及び学習評価の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ◆教員意識調査 ⑤肯定群 55%以上 ⑥肯定群 66%以上 ◆「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定、活用(設定・把握) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育や新学習指導要領にかかわる研修等に参加することで、学習指導要領の趣旨理解についての充実を図る。 ・「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を設定し、「何ができるようになるか」を児童と共有するとともに、目標の達成状況を把握する。 ・講師招聘のもと、英語教育の指導方法及び学習評価についての研修会を実施する。 ・校内で推進教員を中心とした模擬授業や研修会を実施し、学校全体として授業改善を進める。 			<ul style="list-style-type: none"> ◆教員意識調査については、どちらも100%にすることができ、目標値を達成することができた。 ◆「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標は、全学年作成することはできたが、児童生徒と共にそれを使って学習に生かすことまではできなかった。 	B
豊かな言語活動を育む場面の設定	<ul style="list-style-type: none"> ◆外国語活動・外国語科の年間指導計画の作成及び年間カリキュラム作成 ◆児童意識調査 ②肯定群 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・English Corner (掲示板) を活用して、外国の文化に触れる機会を増やす。 ・「ぐんぐんタイム」(前期課程の外国語活動の時間) の内容を見直し、言語活動の質を高める。 ・「Kochi 使える広がる Fun!Fun!えいご」を授業で活用するだけでなく、学校全体で位置付ける「ぐんぐんタイム」や家庭学習等での活用を工夫することで、児童の英語力向上をめざす。 ・オーストラリアの姉妹校との遠隔授業等を通して、外国の文化に触れるとともに、コミュニケーションのツールとして英語を使う体験を増やすようにする。 ・学力向上部より、外国語だよりを発行し、地域や家庭に児童生徒の学習の様子を知らせる。 			<ul style="list-style-type: none"> ◆外国語活動・外国語科の年間指導計画の作成及び年間カリキュラムを作成、全教員に配布した。 ◆児童意識調査の②「聞いたり話したりしたことを、読んだり書いたりするのが楽しい。」は、90%以上という目標を達成できなかった。しかし、その後、遠隔授業などを行った後児童にアンケートをしたところ、別紙のように児童の意識に変化が見られ、肯定群が増えていることが分かった。 	B